

校報 ねぶる

岩出市立根来小学校

学校だより No.5

令和 8 年 9 月 9 日



根来小 HP

育てたい子供像

- 自ら考え、学び合い、学び続ける子
- 多様性を認め、自分も他の人も大切にする子
- たくましく ねばり強く やり抜く子



がっき ねごろあい きょうりよく 2学期も 根来愛 と 協力!!

2学期がスタートして、2週間が過ぎました。お陰様で、夏休みの間、子供たちはご家庭・地域等、いろいろな場で、安全に充実した日々を過ごすことができたようです。始業式の日には、たくさんの持ち物を抱え、にこにこ笑顔で登校してくる子が多かったです。各ご家庭で、夏休みの課題や持ち物の確認等もご協力いただきまして、本当にありがとうございました。

【始業式校長講話より】・・・みなさんに大きな事故やけがもなく、こうして無事に元気に揃って2学期を迎えられたことを、心からうれしく思っています。夏休み中は、家でゆっくり過ごした子、楽しいことや好きなことをした子、たくさんお勉強した子もいました。今年は全国高校野球選手権大会の甲子園で、和歌山県代表の智辯学園和歌山高校が、見事に優勝し、**最後まであきらめずに、チームでやり抜いた姿**を見せてくれました。**和歌山県大会では、根来小学校の6年生(「朝日新聞ニュース」に掲載)が、始球式のピッチャー**に選ばれ、ボールを投げて、立派に役目を果たしました。先生たちも職員室で、その場面をライブ中継で見ることができました。いろいろなことを乗り越え、**成長した姿に「すごいなあ！」と、拍手を送りました。**

こんな明るいニュースもありましたが、この夏休み中、熊本地震や千葉県をはじめとする各地での激しい豪雨による被害があったことを知っている人も多くいると思います。大変な思いをされている方々に心を寄せるとともに、私たちが今、このように安全に集まり、**あたり前の毎日を送れることのありがたさ**をあらためて大切に感じたいと思います。

先ほど発表してくれた**(防災博士意見発表)6年生代表**は、8月19日の夕方、NHKテレビのニュースで、那賀地方の小学校代表21名の中で、特に立派な発表内容と姿で、「根来小学校の児童」として、意見発表をしている映像が流れ、紹介されました。それをお家で見ていた「なかよしキッズ」の会長さんが、「根来小学校の子が、あんな立派な発表をしていて、根来の誇りに思ったよ。」と、翌朝、早速伝えてくださいました。地域の方々が、いろいろな所で見て、知ってくれていますね。



そして、**熊本地震の義援金について、夏休み中から考え、今日、呼びかけてくれた児童長をはじめ、児童会役員の6年生たちの姿。**防災や実際に被害の遭った方々に思いを寄せ、**自分たちにできることを考え、すぐに行動にうつしていること、**校長先生もその姿に心を打たれました。誇りに思っています。9月1日は「防災の日」、8月30日から9月5日は防災週間とされています。みなさんもこのことを機会に、防災について、また考え、これからも助け合い、協力していきましょう。

さて、この2学期には、私たちの学校にとって特別な**「創立150周年おめでとう集会」**があります。150年という長い歴史を祝う節目の年に、みなさんと一緒に学校生活を送ることができるのは、素晴らしい縁です。集会に向けて、大切にしてほしいことが2つあります。

1つ目は、「**ふるさと根来愛**」です。これまで学んだことやこれから学年発表の準備や練習を通して、自分たちの住む根来の歴史や豊かな自然、温かい地域の人々の魅力をたくさん発見してください。「根来っていいなあ」という誇りを持って表現することが、学校や地域への最高のお祝いになります。

2つ目は、「**仲間との協力**」です。150周年の発表は一人ではつくれません。友達とアイデアを出し合い、励まし合い、お互いの良さを認め合いながら、みんなで力を合わせていきましょう。

この150周年の取組はもちろん、2学期全体の「**毎日の学習**」や「**思いやり、根来愛のある生活**」、「**一つ一つの行事**」の全てが、みなさんを大きく成長させる大切な機会です。日々の学習にじっくり取り組み、友達と助け合って生活し、行事に全力で挑む。その積み重ねを通して、一步一步みんなで大きく成長していきましょう。体調には十分気を配り、「根来愛」と「協力」を胸に、実り多き2学期にしましょう。

学校教育目標

自分も他の人も大切に、主体的・協働的に学び続ける子供の育成



子ども防災博士意見発表会 8/19（水）打田生涯学習センターで、岩出市・紀の川市の小学校 21 校の各校代表児童 21 名が参加し、防災についての意見発表を行いました。本校6年児童は、「私を守る小さなお守り」という題名で、防災について、自分でできることを考え、日常生活の中で持ち歩くことができる「**マイ防災ポーチ**」を作り、いざという時に備えていること、「**自分の命をしっかりと守りぬく強さをもった人間になりたい**」ということなどを、その防災ポーチの中身を提示しながら、力強く発表しました。校内でも始業式の前に、全校児童に向けて、オンラインで防災博士意見を発表しました。（別紙に作文掲載）



くまもとじしんぎえんきん
**熊本地震義援金に
ご協力ありがとうございました**



児童会新役員6年生5名と有志6年1名が、8月26日から8月31までの4日間、登校時間に募金を呼びかけました。始業式終了後、有志6年生が「**校長先生、あの児童長の言葉にすごく感動して！…ほくもいっしょに募金活動をさせてもらっていいですか！**」と、とてもいい言葉づかいと素直な心で伝えてくれました。そして、4日間、朝早く登校して、いっしょに手伝ってくれました。1年生から6年生まで、おこづかいを持ってきて募金した子、ご家族や子供会なかよしキッズの役員さんたち（保護者OGも含めて）にご協力いただき、お陰様で44,847円も集まり、送金することができました。被災された皆様に、心よりお見舞い申し上げますとともに、皆様の安全確保と、被災地の一日も早い復旧・復興を心よりお祈り申し上げます。



素敵であたたかいまちへいきたいです。
これからも、このあたたかい岩出市を大切に、もっと
してくれ。とてもあたたかいまちだと思えます。
毎朝学校へ行くとき、ボランティアの方がどんなとき
も笑顔で「いってらっしゃい」「気をつけてね」と挨拶を
してくれ。とてもあたたかいまちだと思えます。
私は、岩出市のあたたかさが大好きで
す。大人になっても岩出市で住みたいと思っています。



根来小学校 6年

私の夢は、大人になったら私も子ども
たちを見守る側になり、このあたたかい
岩出市を未来へつないでいくことです。

「いわで議会だより 81号 2026.9月
キラリ みらい Voice」掲載のこの本校児童会前児童長 6
年生は、昨年度、登校中、横断歩道を渡った後、運転手の方
に「ありがとうございます！」と元気にあいさつしていたそう
です。その様子をちょうど見守ってくださっていた地域の方
（学校運営協議会委員の小倉さん）が、後日、教えてください
ました。
地域の方々への感謝とふるさと岩出への思いがいっぱいです！



根来小学校創立 150 周年記念

「150 周年おめでとう集会」10/10(土) 開催

(テーマ) **あふれる！みんなの根来愛！**

～つながる きずな 150 年のキセキ～

tetoru 配信にてお知らせしましたとおり、

どうぞご参観ください！

「私を守る小さなお守り」

もしも、今こゝで地震が起きたら、私は学
 校の帰り道や、一人で習い事に向かっている
 時、ふとそんな不安におそれられることがある
 学校にいれば先生が守ってくれるし、家にい
 れば家族が助けしてくれる。しかし、災害はい
 つてもだれかといふし、にている時に来るとは
 かぎらない。これまでは、家に置いてある大
 きな非常用持ち出しぶくろがあるから安心だ
 と思ひこんでいた。けれど、一人でいる時に
 小さいしたら、そのぶくろを使うことはでき
 ない。もうすぐ中学生になる私は、いつどこ
 で災害にあつても、自分の命を自分で守るた
 めの備えが必要なのではないか。そう考えた
 私は、ふたんからカバンに入れて持ち歩ける
 「マイ防災ポーチ」を作ることにした。
 材料を集めるために向かっていたのは、ゆちか
 な百貨店。グッズは、お小づかいのはんいで買
 えるものが多く、小学生の私でもきがるに防
 災グッズをそろえられることができた。事前バイ
 シンターネットや本で「日常的に持ち歩くべき
 防災グッズ」を調べ、メモを片手に店内を探
 した。
 まず手に取ったのは「ホイッスル」だ。も
 し建物やエシペーターにとじこめられた時
 大声を出し続けると体力を失うもうしとし
 まうが、笛なら小さな力で自分の居場所を周
 圍に知らせることができる。次に、暗い所を
 照らすための小さな「LEDライト」と、冬
 の寒さや夏の直射日光をしのげるアルミ製の
 「保温シート」を買って、けい帯用トイレ
 と「ばんそうこう」を選んだ。どれも手のひ
 らサイズで、おどろくほど軽い。これなら毎

日教料金と一緒に持ち歩いて、も全く負担にならないうまいと感ぜた。

ただ、ズをつめこむだけでなく、私は自分たちの工夫もした。お気に入りの方々のクールのボーチを用意し、その中にグッズと一緒に家族の連らく先を書いた防災メモとして少しの現金、そして大切な子、コレートを一つ入れた。防災メモがあれば、スモホの充電が切れても公衆電話から家族に連絡がとれる。また、子、コレートは災害時の不安な心を一しずんでおほくとさせてくれる。私たちの大切なエネルギー源だ。

完成したボーチをカバンに入れると、まるで自分だけの特別なお守りを持つ、たようぢで不思議な安心感がわいてきた。それと同時にこれまではどこか他人事のように感じていた防災という言葉が、とても身近なものに感じられるようになった。

マイ防災ボーチ作りを通して、私は大切なことに気がついた。防災とは、国や大人たちが準備する大きな対策だけでなく、自分たちの生活に合わせた「知恵」をしぼり、小さな備えを積み重ねることなのだ。災害は防げないかもしれないが、被害を小さくする工夫は今すぐにでも始められる。

私はこれから、この小さなボーチをいつもカバンに入れ、毎日大切に過ごしていきたい。そして、このお守りを使う日が来ないことを願いつつも、いざという時には自分の命をしっかりと守りぬく強さを持つ人間になりたい。